

# 鹿児島県 鹿児島市

CLOSE UP  
人づくり<sup>16</sup>

一月二二日、まちづくりや人材育成の取り組みなどを取材するため、鹿児島市役所を訪ねた。当日は冬にもかかわらず汗ばむほどの陽気で、県下最大の繁華街である天文館は多くの人々で賑わっていた。市庁舎は天文館からほど近く、前方に波静かな錦江湾（鹿児島湾）と雄大な活火山・桜島を望み、後方には西南戦争最後の激戦地となっ

た城山と呼ばれる丘陵が横たわる、都市と自然、歴史・文化が調和した中心市街地に位置している。

## 鹿児島市のまちづくりと観光振興

鹿児島市の人口は、平成二五年をピークに減少局面に移行し、現在は約五九万五〇〇〇人と六〇万人を割り込み、さらに二〇年後には八万人程度の減少が見込まれている。このような中、鹿児島市では人口減少社会に対応したコンパクトなまちづくりの実現に向け、平成二九年に「かごしまコンパクトなまちづくりプラン」（立地適正化

計画）を策定した。同プランを推進する取り組みの一つとして、現在、中央町十九・二〇番街区と千日町一・四番街区でビッグプロジェクトとなる市街地再開発事業が進行している。

中央町十九・二〇番街区では、JR鹿児島中央駅前地上二四階、地下一階、延べ面積四万七七〇〇㎡、高さ約一〇〇mの住宅や商業・業務施設が入る再開発ビルを建設する。併せて、駅前広場の市道拡幅やペDESTリアンデッキの整備等を通じて、陸の玄関口にふさわしい都市空間の創出を目指している。駅前広場デッキの開通は令和二年九月、複合ビルのオープンは令和三年春の予定である。



鹿児島市庁舎



賑わいをみせる天文館

さ約六〇mの再開発ビルを建設する。商業・業務施設やホテルのほか、図書館、屋上庭園、展望レストランなどが入り、天文館の観光や商業の新たな拠点として期待され、令和四年春のオープンを予定している。



中央町19・20番街区再開発（右）と千日町1・4番街区再開発（上）の全体イメージパース





高架化されたJR指宿枕崎線の谷山駅周辺

また、副都心に位置づけられている谷山地区では、踏切による交通渋滞の解消や鉄道で分断された地域の一体化を図るため、JR指宿枕崎線の谷山駅と慈眼寺駅間二・七kmを高架化する事業が鹿児島市の施行で進められ、平成二八年に谷山駅と慈眼寺駅の新駅舎とともに完成した。本事業に併せて、谷山駅周辺では土地区画整理事業も実施しており、副都心の核として魅力ある都市空間の形成や都市機能の集積が図られている。

観光に目を向けると、冒頭触れたとおり、鹿児島市は高度な都市機能をも

有し、桜島をはじめ世界に誇れる自然・

景観、幕末から明治維新にかけての歴史・文化、さらには街中で楽しめる温泉、芋焼酎や黒豚に代表される食など多種多様な観光資源に恵まれている。中でも、平成二五年に活火山と都市の共生が評価されて誕生した「桜島・錦江湾ジオパーク」、平成二七年の旧集館閣連遺産群を含む「明治日本の産業革命遺産」の世界文化遺産登録、平成二八年からスタートした鹿児島マラソンなどを追い風として、近年、観光客数は国内外とも好調に推移している。鹿児島市では、観光の高い優位性を生かして、さらに観光振興に力を入れ、地域経済の活性化や雇用の場の確保につなげていきたい考えた。

### 土木技術職員研修の取り組み

鹿児島市の「人材育成基本方針」（平成二六年改訂版）を見ると、これからの市政を担う職員に求められる「あるべき職員の姿」として、①公正で誠実な職員、②市民と協働する職員、③積極果敢にチャレンジする職員、④経営感覚を持った職員、⑤活力ある職場づくりに貢献する職員の五つの職員像を掲げ、人材育成の目標としている。



旧集成館 反射炉跡 ©K.P.V.B

同市建設局では、人材育成基本方針の職員像を踏まえ、研修の側面から土木技術職員の人材育成を効果的に進めるため、平成二七年一月、「鹿児島市土木技術職員研修方針」を策定した。建設管理部管理課技術管理係の大江千之主任はその策定趣旨について、「大規模災害を経験した職員の退職や公共事業の削減による事業量の減少等により、長年培われてきた技術力の継承や維持向上が課題」として、「計画から整備、維持管理までを総合的にカバーする高い技術力を持った土木技術職員を育成していくことが求められてい



城山展望台から望む鹿児島市街地と桜島 ©K.P.V.B

る」と指摘した。

土木技術職員研修は、基本研修、専門研修、派遣研修、特別研修の四つに分類されている。基本研修は、技術管理係が研修内容を計画し、新規採用や経験年齢に応じた職員のほか公共工事に関わる職員に対して、測量や設計積算等に関する研修を実施する。専門研





お話を伺った大江主幹（後列左から2人目）はじめ鹿児島市役所の皆さん

修は、鹿児島県や県の建設技術センター等が開催する研修に参加して、工事監督や設計など特定分野の専門的な知識・技術の習得を図る。派遣研修も同じく特定分野の知識・技術を習得するものだが、併せて全国的な視野に立ち、他の自治体職員との交流も深めながら、今日の技術および行政課題に対する検討や事例研究を行う。全国建設研修センターの研修も派遣研修の一つに位置づけられている。特別研修は、幅広い分野の知識等を習得するため、主に外部の専門講師を招いて実施する研

修や講演会である。

鹿児島市の土木技術職員研修の特徴は、上記の体系化された研修構成に加えて、土木技術職員研修検討委員会が設置が挙げられる。この点について大江主幹は、「もともとは建設局長と部長が検討委員会の中心メンバーでしたが、より具体的な発注関係課の状況や意見等を研修計画に反映するため、平成三〇年度から各事業課の課長にメンバー構成を改編しました。検討委員会では、個々の研修ごとに今年度の評価と次年度の変更点等を検討し、研修内容の改善・充実に努めています」と説明した。

### センター研修の感想と要望

当センターの研修には、〈別表〉のとおり、令和元年度は二〇名の職員を派遣いただいた。そのうち、土木技術職員研修の一環で受講された三名の方にセンター研修の感想をお聞きした。『都市計画』を受講した都市計画部から都市計画の宮好宏さんは「今年度から都市計画を担当することになり、都市計画に関する各種制度などを基礎からすべて本当に良かった」と振り返った。そして、グループごとに国分寺駅

周辺を調査し、地区計画を策定した課題演習が印象に残っていると、「他自治体の都市計画の考え方や進め方を聞いたのは有意義だった」と話した。

『開発許可』を受

鹿児島市のセンター研修参加状況（令和元年度）  
【参加人数：20名】

参加研修名	研修期間
都市再開発	4日
都市計画	5日
公園・都市緑化	5日
区画整理	5日
開発許可	4日
下水道	4日
道路管理者のための橋梁維持補修	3日
会計検査指摘事例から学ぶ	2日
建築基準法（建築物の監視）	5日
公共建築工事積算	5日
建築設備（空調）	5日
建築設備（電気）	5日
建築物の維持・保全	4日
建築物の環境・省エネルギー	3日
公共建築設備工事積算（電気）	3日
建築リニューアル	3日
建築工事のポイント	4日
建築設備（機械）改修	3日
建築工事監理	5日

注）「開発許可」には2名参加。

講した都市計画部土地利用調整課の上谷佳寛さんは、「基礎的な知識に加え建築基準法など関連する法令も学ぶことができ、いまの仕事にとっても役立つ」と収穫を口にした。宮さんと同じく課題演習が印象深かったようで、「開発許可にあたってどういう条件を付けるかなど、法律は一つだけでも各自自治体で解釈の違う部分があり、それを討議しながらまとめていくのが楽しかった」と話した。

道路部道路維持課の松下飛鳥さんは来年度以降、橋梁の維持補修を担当することになるため、自ら希望して『道路管理者のための橋梁維持補修』を受講した。道路構造物の点検・補修は業務委託で、実際に現場に出る機会はほとんどないそうだが、「損傷具合や補

修方法などを業者と打ち合わせする際に、自分の意見や考えを発言できるようになった」と、研修成果を強調した。最後にセンター研修への要望を大江主幹にお聞きすると、「働き方改革が言われる中で、ICT技術を活用した建設現場の生産性向上が国の主要施策となっています。本市の発注規模が比較的小さいことや、受注者の設備投資の観点から施工を希望する業者が稀であるためICT導入には至っていませんが、その準備だけはしておかなければならない」と述べ、ICT関連の研修コースを要望した。

※当センターでは、こうした要望に応じて、令和二年度の研修コースとして、土木工事におけるICTの導入や活用方法を学ぶ「ICT施工のポイント」を新設したことをお知らせします。